

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年7月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4074100100
法人名	医療法人成雅会
事業所名	グループホーム陽だまりの丘
所在地 (電話番号)	福岡県糟屋郡須恵町大字新原14番地の7 (電話) 092-957-9595
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年5月26日

【情報提供票より】(平成21年4月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	4 ユニット	利用定員数計	36 人
職員数	32 人	常勤	20人, 非常勤 12人, 常勤換算 23.9人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) 単独	(新築) 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	(有) 100,000 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	580 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年4月27日現在)

利用者人数	36 名	男性	10 名	女性	26 名
要介護1	13 名	要介護2	6 名		
要介護3	9 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	67 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人成雅会泰平病院、はたえ歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設し9年目になるホームは、母体である医療法人の理念に添って作り上げた方針の下、管理者自身が自らの経験・体験による、看護・介護・福祉の視点から、生活・生命・社会を守るため、ケアの在り方を模索・検討し、認知症介護に真摯に向き合っている。また管理者とともに、利用者の尊厳を大切に“ゆっくり・ゆったり”と本人のペースに合わせながら支える職員の姿がある。各ユニット共に、利用者の姿は極自然で落ち着いており、暖かな家庭の雰囲気醸成されている。グループホームの立地場所が、地区のはずれの坂を上ったところであり、様々な交流をする上で条件が好いとは言いが、ホーム側から積極的に地域行事に参加し、保育園との相互交流や、中学生の職場体験の場としても協力するなど、地域と共に利用者の生活を支えており、理想のグループホームの姿が窺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 毎月行うユニット会議で、評価での結果について話し合い、改善に向けて実践努力している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者によりサービス評価の意義が伝えられ、全職員で自己評価に取り組んでいる。自己評価を行う過程で気づく改善点には、すぐに取りかかるようにしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、区長、町福祉職員、民生委員、老人会々長、家族等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。会議は地域とのつながりをもつうえでも意義あるものと捉え、グループホームの報告や認知症の話や看取り、地域との連携などテーマを決めて行っている。消防署職員に参加してもらった際は参加者全員と共に消防訓練を行っている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 年2回の家族会や、面会時に生活の様子や健康状態の報告をしている。緊急時は管理者より家族に電話で連絡、報告がなされている。年1回行うアンケート結果も家族会のおり、対応も含め結果を報告し、運営に反映されている。苦情に対する窓口については重要事項説明書や契約書に明記され、契約者に対し入居契約時に説明している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの利用者・職員が散歩がてら行うゴミ拾いは定着し、地域の草地の除草やコスモスを植えたりしている。ホームでは地域の様々な行事に積極的に参加している。保育園との相互交流や中学生の職場体験の場として協力している。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体を一体的に運営することを目的に法人共通の理念をホームの理念としても掲げられており、その理念の基にホームの方針が作られている。ホーム独自の理念は策定されていない。	○	ホーム固有の理念があることによって、よりホームの特性に合った方針が活かされてくると思われるので、「グループホーム陽だまりの丘」独自の理念を、職員全員で作られることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念は申し送り時やリーダー会議、ユニット会議などのおりに内容を再確認し唱和している。また、職員が毎年自己目標を決める時に理念を念頭につくっており、職員・管理者ともに共有ができています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの立地場所が地区のはずれの坂を登ったところで、工業団地の中に位置し、地域との付き合いは困難に思われるが、積極的に地域とのつきあいに努めている。地域のさまざまな行事に参加し、散歩がてらに行うホーム周辺のゴミ拾いは定着し、草地の草を抜いてコスモスを植えるなどいろいろな工夫をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を伝え、自己評価に全職員で取り組んでいる。自己評価をしていく中で気づく改善点には即取りかかり、前回の改善点については、毎月のユニット会議で評価での結果について話し合い、改善に向けて実践努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は区長・町福祉課職員・民生委員・老人クラブ会長・家族等の参加を得て、2か月に1回開催している。この会議は地域とのつながりをもつうえでも意義あるものと捉え、グループホームの報告ならびに認知症の話・看取り・地域との連携等、テーマを決めて行っている。消防署職員に来てもらった際は、会議参加者と共に消防訓練も行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村からは空室の問い合わせ程度の連絡である。以前、ホームの理事である母体の院長が市職員対象の研修で話をしたことがあるが、サービスの質の向上に向けては、運営推進会議以外は殆んどされていない。	○	サービス向上につなげるためにも、ホームから市町村への働きかけを願いたい。グループホーム協議会には加入しているので、他のホームとの交流の中から、市町村との連携についての情報を得られるようにすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護については職場内で勉強会をしている。家族から相談があり、現在3人が成年後見制度を利用している。他の家族へも理解できるようにもって行きたいと考えているが、現在、情報提供の手立てはしていない。	○	成年後見制度を利用されていない家族へも情報提供をすることや、ホーム内でパンフレットを置くことなども望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回の家族会や面会時に生活の様子や健康状態を報告している。またユニットごとに発行する新聞でも写真入りでの近況報告がなされている。緊急時は直接管理者より家族に電話で連絡、報告がなされている。職員の異動等については、家族等から尋ねられたら報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口は重要事項説明書や契約書に明記し、サービス内容についての連絡先として市町村、国民健康保険団体連合会、広域連合が記載されている。さらに「患者の権利オンブズマン」とも連携し、連絡先としている。また、年に1回家族にアンケートをとり、対応も含めその結果を報告し、運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が隣のユニットの購入した食材を運んだり、互いのユニットに手伝いに行ったりしている。ドライブに行く際、隣の利用者たちと一緒にいくなど、全職員が4ユニットの利用者と顔なじみとなっている。異動がある場合は、個別に日中のケアをしっかり把握できるように努めている。職員の異動によるダメージは見られない。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたっての制限は設けておらず、30歳代から60歳代の男、女職員が勤務しており、個々人の能力を発揮できるようにしている。希望に沿った休暇の取得や国家資格取得の支援、研修会受講の対応等、職員の自己実現や社会参加に対する配慮がある。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習の外部研修参加は少ないが、内部研修、ユニット会議等で人権教育を行っており、経営母体である法人で行われる勉強会や教育活動への参加もある。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時、法人全体、グループホーム・ユニット等の内研修のほか、職場派遣あるいは研修会の周知による自己希望等の外部研修に参加させている。その他、職員一人ひとり管理者と面談をして、職員自らの目標を決め、それに取り組むシステムで職員教育をしている。研修の参加にあわせての勤務日の調整など参加者に対する協力体制も整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており交流会、研修会等に定期的に参加して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を考えている利用者には、前もって1・2回お茶飲み訪問の機会を作っている。少しでもホームの雰囲気を知り、納得して入居していただけるようにしている。また、利用者に対して、家族とともに無理強いはいはしないようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との日常生活の中で、畑で収穫した玉ねぎの干し方、らっきょうや漬物の漬け方、かまぼこの飾り切りなど多くのことを教えてもらっている。職員の体調を心配してもらったり、職員を気遣ってくれたりすることからも、支えられていることを実感している。会話することから生まれる楽しさ、喜びなどから互いに支え合う関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を把握するうえでは、センター方式を活用しており、利用者の生活歴や日々の利用者とのかかわりの中で、言葉や表情で思いを把握している。困難な場合は、職員間で話し合ったり家族から情報を収集して利用者本位に対応できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的な全職員の気づきや意見などを月1回のユニット会議で話し合っている。訪問診療や担当医師、家族等と情報交換をして介護計画を作成し、家族の確認を取っている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月1回の見直しを行っているが、利用者の日常生活や健康状態を詳細に把握して見直しを行っている。見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、その状態に応じた実施状況や気づきを家族や関係者で話し合うなどし、現状に即した介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一人ひとりの要望に添った病院や買い物への同行などを家族に代わって行っている。地域の民生委員や老人会で管理者が認知症についての話を地域との関わりを深めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診も含め、本人及び家族の希望される医療機関への受診を支援をしている。利用者の要望に添って近隣の診療所からの訪問診療の受け入れもしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人及び家族等に対して、利用開始時に説明し同意を得ている。終末期という判断にいたった場合、改めて確認すると共に、状態の変化に応じて家族やかかりつけ医等と話し合いを重ね、常に新しい情報を医療、職員間で共有し、現在までに4名のターミナルケアを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、利用者の尊厳やプライバシーを大切に言葉かけや対応に職員全員で取り組んでいる。特に排泄時の言葉かけには慎重に注意しながら対応している。個人情報に関する記録等は事務所に適切に保管し秘密保持に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日のプログラムはあるが、一人ひとりのその日、その時の思いを尊重したケアを行っている。リビングでは遅い朝食をとっている人、露の皮むきをする人、テレビを見ている人、要介護度の高い方のそばに寄り添い語りかけている人、ソファーに座って静かにしている人と一人ひとりの時間を尊重した支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの得意分野で、調理や後片付けを職員と共に行ったり、食事メニューは、利用者話し合い、好みを聞き取り入れることもある。食卓はこれまでの生活の経過から数人用、二人用、一人用と別れているが、それぞれが定位置に着き、職員も間に入り、楽しく語らいながら同じ食事をとっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週4日(月、水、木、土)で、職員の多い午前中に実施している。時間外の要望があれば柔軟に対応できるようにしている。入浴を拒む利用者に対しては、コミュニケーションをより密にしたり、家族の協力を得て楽しく入浴ができるように取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴から把握し、一人ひとりの力を活かした楽しみ、気晴らしの日々が過ごせるように取り組んでいる。季節や天候により出来ることも考慮しながら、室内の草花の水やり、菜園作りなど日々の生活に活かされた支援が行われている。調査時も職員の距離を置いた見守りのなか、利用者が針箱、はさみをそばに置き雑巾を縫い、またジャガイモの皮むきをしているという光景が見られている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が楽しみにしている買い物を併設施設の大型バスを利用して週2回(月、金)行っている。要望があれば他の日にも外出や散歩の同行をし、自由に出かけられるように体制をとり、事業所内だけで過ごすことがないように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には日中は施錠をしておらず、利用者が自由に出入りができるようにしている。18:30～翌朝7:15の間の夜勤帯には施錠している。各ユニットの入口にはセンサーを設置して利用者の出入りが分かるようにしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回昼夜を想定し、消防署との避難訓練を行っている。出火場所や夜勤時間(職員が一人)の場合などを想定した訓練を行っており、職員は誘導や器具の取り扱い、連絡体制などを熟知している。併設の病院、施設との協力体制もできている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取など詳細に記録し一人ひとりの栄養状態を全職員が把握できている。その日の利用者の健康状態や食事状況などを活動記録台帳に記載しており、利用者一人ひとりに対する取り組みを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地よい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、形、色の違ったソファや椅子が置かれ、壁面には手づくりの装飾品が飾られ家庭的な雰囲気となっている。廊下にもソファが随所に置かれ利用者が自由に寛いでいる。リビングに続く中庭には飼っている犬がいて利用者、職員の癒しになっている。廊下の一角からは若草山が眺められ季節の移ろいが身近に感じられる空間となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入口には利用者、家族の好みの暖簾が掛けられている。入居前に馴染んでいた箆笥や足踏みミシン、置物、椅子、写真などが持ち込まれ、生活の継続性を尊重した居心地よく過ごせるような支援が行われている。</p>		